

令和5年度 江戸川区立篠崎第四小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よく考え、つくり出す子」＝学び大好き</li> <li>「みんなとともにのびる子」＝みんな大好き</li> <li>「たくましく生きる子」＝自分大好き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「豊かな学びと人と人とのふれあいのある学校」</li> <li>「笑顔で登校し、満ち足りた気持ちで家路につく子」</li> <li>「様々な学習や体験活動を通して人とふれあう中で、子供たちの成長を促す教師」</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;・校内研究として、全教員が授業を行うことができた。授業の構成、学習コンテンツに意欲をもつことができた。</p> <p>・年35時間の外部指導員を活用した補習教室を行うことができた。</p> <p>&lt;課題&gt;・会議を減らすなど、校内体制は整えることができたが、超過勤務となってしまう教員が出てしまった。</p> <p>・教員の配置に変更が生じてしまったため、外国語専任教諭を続けることができなかった。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・授業の中で、「できた喜び」「学ぶ楽しさ」を体験させることができるよう、児童の実態に合った授業を行う。 ・CDIテスト(校内独自の学力調査)を実施し、児童の実態を把握し、指導に活かす。 ・外部指導員の補習のあり方の見直しを図る。	・校内研究として、全教員が授業公開を行う。 ・国語と算数で正答率80%以上の児童が8割以上なることを目指す。 ・分析は、夏季休業中に行い、2学期以降の授業改善に役立てる。 ・外部指導員を活用し、1学年に対し年35時間の放課後補習教室を行う。	A	B	○校内研究は、6月に4年4学級、7月に6年3学級、9月に5年3学級の計10学級実施することができた。 ○CDIテストにおいて、国語の正答率は、2・3・5年が80%を超えた。算数は、2・3・4年が80%を超えることができた。分析を夏季休業中に実施した。 ○2年生以上に外部指導員を活用した放課後補習教室を実施している。	B	・学力が向上してきている。引き続き、児童に基礎・基本の確実な習得を期待する。	・年間を見通して、意図的・計画的に学力向上を図る。 ・区の施策を活用し、無駄のない指導を実施する。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学年の実態に応じた読書科における探究的な授業展開を行う。	・「学校のことに関するアンケート」(自校作成)において、「読書が好き」と答える児童が90%とする。 ・単級の授業展開を、年3回実施する。	B	B	○調べる学習コントロールでは、担当教諭が積極的に作品作りを促し、内容の濃い作品を完成させることができた。 (読書を通して「探求的学び」の取組)を実施する。 ○「学校のことに関するアンケート」は、12月に実施する。	B	・読書科の趣旨をよく理解し、取り組んでいる。 ・子供たちに本を読む習慣を引き続き、させてほしい。	・来年度も引き続き読書家を実践していく。 ・児童に本を読む習慣を引き続き定着させていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・授業や休み時間に運動することを楽しみ、「できた」という経験をもたせるために、掲示物などの環境を整える。	・主運動につながる補助運動を入れた授業や掲示物の工夫をし、授業観察を年1回行う。 ・年間を通して「運動取組カード」を作成し、運動量を視覚化する。 ・持久力を伸ばすため、体育の授業の始めに持久走などを取り入れる。	B	B	○「運動取組カード」を作成することができた。 2学期には、児童にもわかるように掲示する。 ○10月の長縄記録会に向けて、休み時間を活用し練習の機会を設ける。	B	・子供たちの体力を向上させ、運動することの楽しさを引き続き味合わせていく。	・江戸川つなわとびウィーク等を積極的にに行い、児童の体力を向上させ、運動することの楽しさを引き続き味合わせていく。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・メンタルケアの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・自他ともに認め合ったり、尊重し合ったりする態度を育てるために、「良いところ見付け」を行う。 ・巡回指導教員と連携を図り、児童理解に努め、指導に活かす。 ・副籍学級との情報共有を図る。	・授業及び帰りの会等で「良いところ見付け」を全クラスで毎日行う。 ・巡回指導教員とのOJTを年に一度は行う。 ・週に一度、児童の記録を共有する。 ・月に一度、学校だよりや学年だより等で情報共有を図る。	A	B	○帰りの会等で「良いところ見付け」を実施することができた。 ○巡回指導教員とのOJTは、4、5月に実施した。 ○毎回の指導後に、児童の記録を共有することができた。	B	・教職員の特別支援教育への理解を一層深め、子供たちの指導にあたることを期待する。	・校内OJTにより、巡回指導教員から合理的配慮の方法等の研修を行い、教職員の特別支援教育への理解を一層深めている。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・不登校の未然防止のために、「居場所づくり」きすなづくりを実施する。 ・教育相談体制を強化するために、校内で情報を共有し、校内委員会で有効な手立てを検討し、実施する。 ・学級や児童の実態を把握するために、hyper-QUを活用する。	・9月までに、各学級で実践の方針を確認し、実践していく。 ・月に1回、区児童相談所との情報共有を行う。 ・定期的に校内委員会を開き、手立てを検討する。 ・9月までに、hyper-QUの結果をもとに、学級経営の方針を確認する。	A	B	○4・7月に不登校改善学校支援システムを活用した各学級での実践の方針を確認することができた。 ●月に1回の区児童相談所との情報共有をすることができなかった。 ○SSWとは、7・9月に情報共有を実施することができた。 ○9月の校内OJTにおいて、hyper-QUの結果を分析し、学級経営の方針を確認することができた。	B	・子供たちのために安全で安心できる環境を整えていきたい。	・児童が、安全で安心できる環境を整えるために、積極的に不登校対応を実施し、未然防止に努める。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校の取組を発信するために、学校ホームページを充実する。 ・学校の取組を発信するために、学校公開を実施する。	・学校ホームページは、月に2回は各学年から発信する。 ・6月に学校公開を行う。	B	B	○学校ホームページは、月に2回は各学年から更新することができた。 ○6月に学校公開と道德授業地区公開講座を実施することができた。	B	・これからも教育活動に関する情報発信を期待する。	・学校ホームページや学校公開等を活用し、積極的に情報発信を行う。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校経営方針や教育活動について理解を深めるために、学校評議員会を開催する。 ・学校アンケートを活用し、課題を把握し、改善を図る。	・年間3回、学校評議員会を開催する。 ・年間1回、児童・保護者・地域にアンケートを実施する。	B	B	○6月に学校評議員会を開催することができた。 2学期にも実施する。 ○学校アンケートは、12月に実施する。	B	・子供たちのために、教育活動を支援していきたい。	・年間3回の学校評議員会を実施し、地域に開かれた学校を実践する。
	(学校における働き方改革) ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施。	・一斉退勤日には、会議を入れず、定時に退勤できる環境を整える。 ・SSS等を有効に活用し、業務の効率化を図る。	・月に一度一斉退勤日を実施する。 ・SSS等を週に1回以上活用する。	B	C	●月に1回の一斉退勤日には、会議を入れずに実施できた。しかし、退勤する教職員は、ほとんどいない。 ●SSS等を週に1回以上活用することができた。時期によって差があるのが、定期的な活用ではない。	B	・先生方の心身ともに良好となるように、取り組んでいきたい。	・教職員の体調には、十分留意していく。
特色ある教育の展開	(SDGsに関する教育) ・全教員によるSDGsに関する教育活動の実施。 ・校内研究を社会科・生活科を軸として実施。	・「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を活かし、授業研究を実施する。 ・SDGsに関する指導方法の工夫を研究する。	・全学級1回は、授業を行う。 ・SDGs掲示コーナーを設け、学期に二度は更新する。	B	B	○SDGsは授業は、2学期に行う。 ○1学期にSDGs掲示コーナーを更新できなかった。2学期には、更新する。	C	・SDGsは、区でも推進している施策なので、学校としても十分に取り組んでほしい。	・SDGsについて、学期に1回は掲示物等で本校の取組を発信していく。